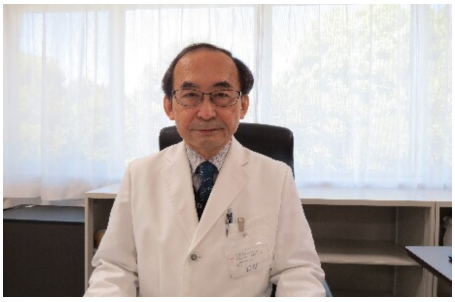
1 就任挨拶
退任挨拶
2 院内研究報告会
3 人事異動
4 人事異動ほか

就任挨拶

院長　根東 義明



4月1日付けで柳瀬前院長の後任を拝命しました根東です。社会福祉法人全国重症心身障害児（者）を守る会の倉田理事長や柳瀬前院長が長年築き上げられた当センターの歴史を引き継ぎ発展させるべく、微力ながら力を尽くす所存です。私は昭和56年に医学部を卒業後、岩手県立中央病院で小児科医としての研修を受けました。その後は若手医局員のひとりとして医学研究の道に進みました。卒後4年目に、兵庫県西宮市に開設されている砂子療育園（現西宮すなご医療福祉センター）の重症心身障害児（者）医療にわたって携わる機会をもちました。 重症心身障害児（者）とご家族の皆さまが抱える生活・療養・治療での様々な困難を垣間見る中で、「最も弱いもの」を守るために、自分には何が出来るのか、若いながらに模索する2年間でした。その後、後ろ髪を引かれながら同園を離れ、40年近くもの年月が流れました。その間、東北大学で約20年、日本大学で10数年と、臨床・研究・教育に従事し、専門領域も小児医学・腎臓病学から医療情報学・病院管理学へと広がりました。日本大学退職後は、公立阿伎留医療センター企業長・院長として病院運営に携わりました。「最も弱いものをもれなく守る」という守る会の基本理念を前に、かつての熱い思いが改めて込み上げます。職員の皆さまと力を合わせ、様々な課題を乗り越え、安全で質が高く、何より楽しい療育現場を実現したいと願っています。あたたかいご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

退任挨拶

名誉院長　柳瀬 治

退任にあたり一言ご挨拶を申し上げます。平成29年4月1日から8年間の長きに亘り、東大和療育センターの院長として重症心身障害児者の療育にかかわる機会をいただいたことを深く感謝しております。この間に私が大変感銘を受けたことは、重い障害をもつ方々の命の輝きを支えるために医療職、福祉職および事務職の皆さんが協力連携していく姿でした。大規模改修とそれにともなう仮設棟でのセンター運営、その最中に突如始まったコロナ禍など、職員の皆さんお一人おひとりの協力がなければ乗り越えることはできなかったと考えております。また、幾多の困難にもかかわらず当センターの運営にご理解とご協力をいただいたご利者・ご家族の皆様、ならびに手厚いご支援をいただいた東京都福祉局をはじめとする関係機関の皆様に心からお礼申し上げます。ご利用者の高齢化・重症化が進む中で、職員の皆さんには、医療の充実とともに年齢と状態に応じた日中活動の充実、意思決定支援、および在宅で過ごされる重症児者の方々の支援などに、引き続き力を合わせて取り組んでいただきたいと思います。

根東新院長をお迎えし、「最も弱いものをもれなく守る」とする重症心身障害児（者）を守る会の基本理念のもと、当センターが益々発展することを願いまして退任の挨拶といたします。ありがとうございました。

第31回院内研究報告会

開催日：令和6年2月26日（水）

当センター院内研究報告会は今回で第31回目の開催を迎えることとなりました。毎年、日々の業務改善状況を確認しつつ、研究成果の発表を通して、学術的資質の向上と院内での評価を受ける機会としております。今回の院内研究報告会は、院内のみ9演題の口頭発表となりました。特に優秀な研究については、外部学会等への発表及び論文を専門誌に発表するようにしております。

<最優秀賞>
長期利用者のACPに関するグループワークの取り組み
臨床倫理問題検討部会／臨床倫理・ACPWG　濱野　正幸
<優秀賞>
重症心身障害児者施設における看護リフレクション前後の意識の変容
第3病棟　菅原　健太
<努力賞>
長期臥床状態となっていた重症心身障害児者が、車椅子乗車し日中活動に参加したことによる効果
第2病棟　前田　悠里
<その他の演題>
重症心身障害児者施設職員の抑制帯使用の意識と実際の使用時間の関係について
第1病棟　糀谷　隆之
コロナ禍後ににおける重症心身障害児者施設に関わる多職種間の意識調査
第4病棟　杉山　陽子
長期入所者の体組成及びその経時的変化−サルコペニア・サルコペニア肥満−
医局　　糀　敏彦
喉頭気管分離術後の重症心身障害者に対する摂食嚥下機能再獲得へ向けた取り組み
第2病棟　長谷川　雅也
太田stageIの自閉スペクトラム症幼児における認知発達段階の変化と発達的特徴
リハビリテーション科　田中　豊明
慢性呼吸器疾患看護認定看護師としてアウトリーチを経験して
第4病棟　矢崎　千草

研修報告

第21回福祉相談関係職員研修会に参加して　　在宅支援室　医療ソーシャルワーカー　髙坂　柚賀

昨年度から在宅支援室でソーシャルワーカーをしております。髙坂柚賀です。昨年9月に心身障害児総合医療療育センターで開催された3日間の福祉相談関係者研修に行ってきました！研修会には日本全国から28人の受講者が集まりました。さまざまな施設で働く方と交流し、意見交換することができました。

私が研修の中で特に印象に残っているのは、能登半島地震の経験を語っていただいた輪島市役所福祉課主幹の羽村龍さんの講演です。羽村さんは震災当時、ご実家の埼玉県に帰省していたため、遠隔で現場の職員に指示を出していたそうです。輪島市に戻ってからは、災害対策本部で活動を行っていました。羽村さんが力を入れたことの一つに、被災地からの情報発信があります。テレビのニュースなど被災状況は報道されていますが、「具体的にどんなことを助けてほしいのか」伝えることが必要だと考えました。そこで、自身で資料を作成し、知り合いや関係者に配布したそうです。その後、災害支援団体や内閣府、厚労省の方々が訪問してくれるようになり、今後の復興支援を一緒に考えてもらえるようになったといいます。そこで知り合った方々とは、今でも相談できる関係性が続いているとのことです。私がこのお話で感じたことは、困っていることを周りに発信する大切さです。私自身がそうなのですが、周りの人に助けてほしいと声にすることは案外難しいことだと感じています。人に頼るのは悪いことではないと分かっていても、迷惑をかけるような気がして話せないこともあります。私自身も、結局解決できずにいろいろな方に助けてもらっているところです…（笑）羽村さんのようにどんなことをしてほしいか具体的に話すことは支援する側にも伝わりやすく、取り入れたいなと思いました。

<令和6年9月　研修会場の外観>

春の訪れとともに新年度が始まり早2か月が過ぎようとしています。

新入職員の方も異動された方も新しい環境に慣れた頃でしょうか?当センターも根東院長をお迎えし、新年度がスタートしました。センターの職員一人ひとりがご利用者のために日々奮闘中です。新しい出会いや環境が皆様にとって力となりますに～♪(O)

東大和療育センターホームページ

東大和療育センター　検索

そよ風　第116号
編　集　院内報そよ風編集委員会
発行日　令和7年5月15日
発　行　東京都立東大和療育センター
東京都東大和市桜が丘3−44−10
TEL 042−567−0222